

2005年度『館長懇話会』

日時 : 2005年6月17日(金) 11:15~12:10

場所 : 沖縄国際大学図書館 学習室3

出席 : 33校 館長33名(会長校 龍谷大学含む)

開会のことば : 当番校 沖縄国際大学 図書館次長 新川 宣安

開会の挨拶 : 部会長校 久留米大学図書館 館長 西土 純一

久留米大学図書館西土純一図書館長を進行役に、「館長懇話会レジュメ」にもとづき説明、進行が行なわれた。

1) 「館長懇話会」趣旨説明

館長懇話会も第3回を迎え前回の「図書館の利用促進」に続き今回はテーマを「図書館の地域開放」として公共図書館との連携や開放状況等を話し合うことで、将来の大学図書館像を探る。

2) 討議事項

(進行)

地域開放を行った結果、下記事項についてどのようなメリット、デメリットがあり、デメリットに関してはどのような対策を講じたかを話し合いたい。

アンケート集計結果の「10. 地域開放をめぐる討議事項」について

- ・一般市民の大学図書館利用が、学生に良い影響を与えるような他大学の試み事例について
- ・危機管理について
- ・地域図書館との相互利用の促進について
- ・地域開放にともなうサービスの種類について
- ・開館時間の延長等、開放拡大によるセキュリティ対策についての現状と、具体的、効果的な対策について
- ・人的・経済的サポートについて
- ・登録者をしぼる場合の適正な方法について
- ・女子大学の特殊性を鑑み、防犯対策の具体例について

(進行)

地域開放のメリットについて、具体的な内容を紹介いただきたい。

(京都学園大学)

自治体との図書館総合情報ネットワークの中で、大学のPRができ存在感を示すことがで

きた。中学生、高校生にも開放し、一般の方も夕方になると犬を連れて散歩するなど、コミュニティに溶け込んだ存在が評価されていると思っている。

(沖縄大学)

一般市民や卒業生の受験勉強や資格取得のための利用は、在学生へのいい影響となっている。

(進行)

防犯対策上、入館者を制限することに対しての考えや、事例を紹介していただきたい。

(甲南大学)

以前は地域開放という形でかなり広く開放していたが、いわゆる防犯上の問題が若干あったと聞いている。現在は一般開放という形ではなく、卒業生や公開講座の受講生に利用させている。現在セキュリティ上の問題はないと認識している。

(鹿児島国際大学)

大学は郊外に位置し、9時20分まで開館しているが、以前職員が帰宅時に不審者に追いかけられたこともあり、照明や防犯ベルを設置した。他大学の防犯対策を伺いたい。

(南山大学)

地域開放をしているが、常々セキュリティについて気になっている。抑止力になると思い、最近、防犯カメラと押しボタン方式の非常ベルをかなりの数設置した。カウンターや正門前の守衛室でも確認でき、非常時に備えた体制を整えている。10時まで開館している為、防犯対策には気をつけている。

(神戸女学院大学)

地域開放はしていないが、女子大ということもあり、不審者対策を講じている。警備員が館内を定期的に巡回している。カード式の入館ゲートを導入した。守衛室や警備会社への通報ができる携帯の非常通報装置を設置した。受付カウンター下に非常ベルを設置し、緊急時には館内に警報が鳴り、警備担当者に連絡がいくシステムがある。職員間の緊急連絡網がある。図書館利用証は写真入りで発行し、ほとんどIDカードのような形となっている。職員は館内の巡回をかなり強化し、不審者と見られる者には身元確認を行っている。校門近くの守衛所では受付確認を行っている。又、学内に監視カメラを設置している。

(大同工業大学)

地域開放をしている。女子トイレでの防犯上の問題があり、位置確認ができる防犯ベルを設置した。最近、営業後の事務処理を行っている営業マンの利用も多い。フリーにしていると色々な問題がでてくる。浮浪者と見られる者が入ってくる場合もあり、館員がかなり神経を使い、トラブルが起こらないように上手に退館を促しているが、負担となっている。

(鹿児島国際大学)

以前女子トイレで防犯上の問題が発生し、ドア等を改造したところ、特に問題は起こらなくなった。

(神戸女学院大学)

危機管理の面で、出来るだけ可能性を考えた上で、起きてから動くのではなく、起きる前に徹

底的に抑えておくという発想があると思う。広いキャンパスで出入りが自由な場合、他大学では危機管理的な意識でどのように対応しているか伺いたい。

(進行)

これは図書館に限らず、キャンパスの問題とも考えられる。図書館に限定し、図書館の中で色々な問題が起こった場合、図書館長という責任者の立場としてどのように対処されますか？

(日本福祉大学)

大学の立地条件により色々な特性があると思う。本学は田舎に位置している。大学図書館の開放の考え方には2つあり、1つはコミュニティに根ざした色々な人達を対象とする考え方と、もうひとつは大学のもっている特性を活かした、たとえば福祉関係や医療関係の資料を閲覧させるなどの特化したあり方と2つあると思う。今はそれが混在した問題があり、当大学もトラブルを抱えたことがある。それは図書館に限らず構内での問題でもあるが、図書館への入館はチェックが入るので職員は注意をはらえる。都市型の大学と田舎の大学とでは違いがあると感じる。

(進行)

立地条件でかなり違うようですが、都市型のキャンパスの場合はいかがですか？

(九州産業大学)

交通の便の良い所に位置し、学生数も多く、一般の利用もかなりある。地域開放という理念と矛盾しない形で対応しなければならないので、対応には苦慮している。保安員を図書館ゲート近くに配置している。地域開放の理念の問題と地域開放そのものが目的ではないという意見がある。つまり大学図書館の運営費は学生の納付金であり、その問題とどこかでぶつかるだろうという意見である。試験前になると高校生が集中的に利用する場合があるが、良い対策があれば伺いたい。

(進行)

高校生の利用や地域開放の制限について紹介いただきたい。

(京都学園大学)

身分証明書、保険証、免許証で身元確認をし、学生と同じライブラリーカードを発行している。当初は千円の登録料を徴収し、市在住者のみの制限を設け学生と同じ条件とした。5年間の猶予期間はトラブルもなくうまくいき、登録料を無料にした。又、受験勉強の生徒が大挙して押しかけることもなかった。様子を見ながら手直しをしていく中で現在はトラブルもなく、午後7時まで開館している。どのようなシステムで開放するかを地域によって考えるべきである。

(鹿児島国際大学)

高校生が利用する場合、図書貸出まで認めていますか？

(京都学園大学)

閲覧だけです。

(沖縄国際大学)

一般市民と卒業生、さらに高校生の利用形態が異なる。在学生中心の考えから出発しているのは勿論のこと、前・後期の定期試験の3週間前にはまず一般市民に対して入館を制限するが卒業生は利用できる。次に試験の2週間前には卒業生も制限し、本学学生のみ利用となる。春期・

夏期休暇期間は高校生にも開放している。学期中には開放しない。このような色分けをし、地域開放のバランスをはかっている。

(進行)

利用者に対する金銭的な負担、いわゆる登録料などで対応している例を紹介いただきたい。京都学園大学は登録料は廃止されたということですね。

(京都学園大学)

廃止しました。

(進行)

アンケート調査結果に地域開放を実施すると地方自治体から助成金が受給できるという事例があるようですが。

(松山大学)

地域開放に関して市から少額の助成金を受給している。市民向けの資料(ベストセラー図書、学術的ではない図書等)を収書し、市民に還元している。現在、市からの紹介状により市民限定で閲覧、貸出を行っている。助成を受けているために開放しているのではなく、助成が打ち切られた場合でも地域開放は続けるであろう。日曜開放について検討しているが予算的に実施できない現状である。一般市民の利用率は低率で夜間の利用もなく、セキュリティ上問題になったことはない。しかし、夜間は委託職員とアルバイト学生でほとんど運営されている為、機能そのものの低下などが危惧される。

(進行)

ほかに特にこの場で発言、意見を伺いたい方はいらっしゃいますか？

(九州情報大学)

地域開放をしているがほとんど利用が無く、もっと市民に利用してもらいたい。入館者を増やした工夫事例があれば伺いたい。

(神戸女学院大学)

蔵書内容や利用者の種類にもよるが、公共図書館を利用した方がはるかに良いと思われることが多くある。市民の利用者を増やすという発想自体、公共図書館と何が違うのか、素朴な疑問がある。

(進行)

地域開放の問題は今まで話し合われてきたように、まず大学の理念あるいは建学の精神が図書館にどのように反映されるかという問題があるだろう。地域性、立地条件によって開放の仕方が異なり、大学の規模、財政状態もその問題に絡んでくると思われる。結局は個々の図書館がどのように考え、どのように実施し、かつどのような対策をとるかということに関わってくるだろう。この懇話会を機に各図書館で十分に地域開放の考え方や問題点を検討していただきたい。